

~KENSYU~

谷地南部小学校
ICT 研修だより
2021. 10. 4
No.3 文責 伊藤

実践報告

こんな題で書き始めると、さぞかし良い実践をしているように思われるかもしれませんが、全くそんなことはありません。ただ、自分が負担を軽減したくて、休み時間中課題の点検をしたり直しをさせたりする生活から抜け出したいと取り組んでいることですので、「3年生はそんなことやってるんだあ。」くらいの軽い気持ちでご覧ください。

私の悩みは、「学校で遊べないこと」でした。幸い健康な体で子ども達とも歳が近く（2回り違いますが…）まだまだ子ども達と一緒に動ける年齢なので、授業以外は南部小にいる子どもたちと一緒に体を動かしたり話をしたりして時間を過ごしたいと常々思っていました。しかし、宿題は出したからには見ないといけないし、提出していない児童に声かけしたり直しの指導をしたりと、やるべきことは山積みです。「宿題」だから。

思い切って9月から宿題をなくしました。いつも秀樹先生の二番煎じですが、「学ぶはまねぶ」なのでいい実践は取り入れていこうと思います。しかし3年生なので、一から全て自主的に取り組むのは少し難しいと思いました。全てを家庭に丸投げするのも心が引けました。そこで、これまで毎日連絡カードに書いていた「宿題（◎）」を「家庭学習の目安（かめ）」に変えました。私から子ども達に提示する事は、何一つ変わっていません。ただ、家の人と相談して自分のスケジュールに合わせて課題をいつ・どれくらいやるかを自由に決めていいことにしました。もちろん、毎日何かしらは取り組むことと最終的には全て網羅するよう取り組むことも話しました。また、提出の仕方をこれまでと変えることにしました。学校に持って来るのではなく、ロイロノートで提出することにしました。

《よかったこと》

- 「先生、やったんだけど持って来るのを忘れました。」が、なくなりました。
- 放課後から点検できるようになりました。
→ 3分の1ほどの児童は、私が学校にいる間に提出してくれるので、翌日見なければいけない量が少なくなりました。（総量は変わりませんが、タイムマネジメント？）
- 未提出（未取り組み）が一目瞭然。
- ノートを返却しないので、その日中に点検できなくても影響なし。
- くしゃくしゃになったプリントや食べこぼしで汚くなったノートを見ずに済む。



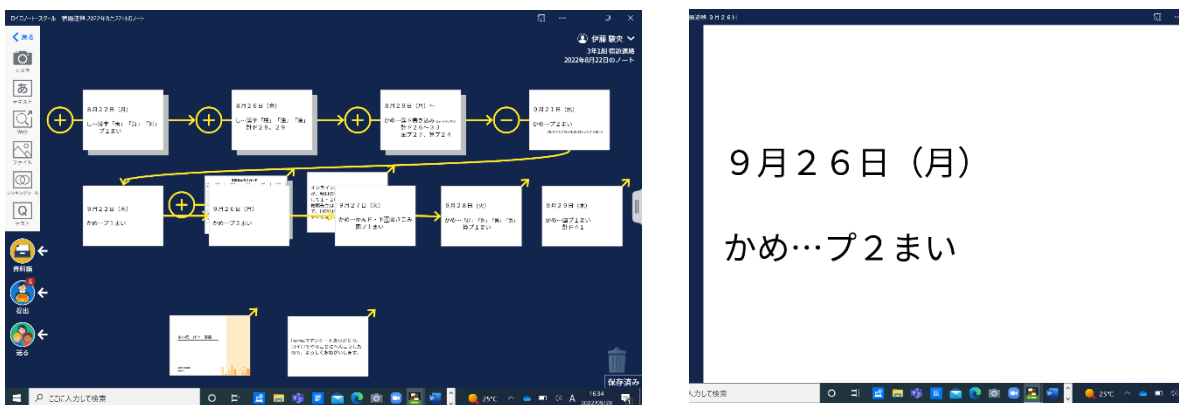
裏面に続きます

以下に実際の画面などを載せておくのでご覧ください。また、他の先生方もたくさんのいい取り組みをしてくださっています。「学ぶはまねぶ」です。どんどん見て取り入れていきましょう。詳しいことは直接聞いてみましょう。研究部もみんな待っています！

① 「家庭学習」という名前の授業を作る。

② その日の家庭学習のめやすカードを作成する。

これまで出した課題も見られるので、次に何を出すといいのかも分かりやすい！



③ 日付を名前にした提出箱を作り、担任が作成したカードを提出する。

「回答共有する」を押せば、連絡カードを忘れた児童も課題を確認することができます。

また、担任が出した課題と子ども達が取り組んだ家庭学習が一つの画面で確認できるので、取り組みの様子も把握できます。



※朱を入れて「返却（一括返却）」すれば、即時フィードバックも可能です。子ども達のロイロノートの画面に配付されるので、子ども達もすぐに確認できます。